

# 暁映ゆる

第3号

発行責任者 藤高道也  
印刷所 ハイライフ印刷  
株式会社

題字 盛生一郎(2期)

## 卷頭言

## 皆で知恵を

支部長 藤高道也(20期)

少し遅くなりましたが、会報“暁映ゆる”3号をお届けいたします。

会報の発行は、第一に総会の報告、第二に会員の消息を知る場を持つ、第三には、ともすれば散逸しがちな仁泉会広島県支部の記録を残して置くという三つの役割を果たしながら、同窓会活動の一翼を担うことにあると思います。もとより同窓会の活動と運営の根底には、「先輩には敬意を、後輩には愛情を」という精神が Basso ostinato として流れていることが必要です。しかし、さて具体的に何をどうすれば良いかについて私どもはまだ試行中であり、確固たる方針を立てるには至っていません。本年度の総会での盛生一郎会長のご挨拶にありましたように、皆で知恵を出し合って会務をすすめたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

昨年の秋、他県の仁泉会支部の活動状況や会報のあり方などを知りたいと思って、『仁泉会ニュース』に度々投稿しておられる愛知県の近藤龍夫支部長(学2)と、お隣の山口県の丸山剛三郎支部長(15期)に、手紙を添えて“暁映ゆる”1, 2号をお送りいたしました。折り返して両先生からご丁重なお手紙と、『愛知県仁泉会たより』、『仁泉会山口県支部誌』をそれぞれご恵贈いただきました。愛知県支部では、総会のほかにレクリエーション、若手医師の会などを開き、年1回発行の

『たより』はそれらの記事と研究論文などを内容としています。なかでも私にとって印象的だったのは、その会報の奥付に「総会では、楽しく 歌って 飲もう」と大きく印刷してあったことです。総会運営の極意はこれに盡きるのかもしれません。

また『仁泉会山口県支部誌』は、丸山先生が支部長在任10余年の区切りとしてまとめられたものです。丸山先生のお手紙には、会員数32名の小さな世帯の運営に悪戦苦斗された経緯(総会出席率向上のため、福岡県支部との合同会が一度は成功したが線香花火に終ったこと、広島県支部との会合を考えたが果たせなかったことなど)が綴られており、行間に苦渋の思いを読み取ることができます。逆説的な言い方をすれば、この苦渋の思いこそが丸山先生をはじめ幹事の先生を搖り動かして山口県支部を運営してこられた力になっていたのかもしれません。

ともあれ、会報“暁映ゆる”が、総会や懇親会とともに、同窓諸兄を結びつける接着剤として、その役割を少しでも果たしてくれることを念願しています。

(丸山先生からの私信に触ることについては、予め先生のお許しを得ております)

## 昭和62年度仁泉会広島県支部総会記

時 昭和62年8月23日  
場所 広島県民文化センター

午前11時に受付を開始。かつての童顔が鼻下に美髪をたくわえての来場あり、同期生が語りあいながらの来場あり、同窓会らしい風景となる。やがて本日の講師関一郎先生が、「懐かしくて広島の街を歩いているうちに道に迷ってしまいました。」と言いながら到着される。本年度の総会出席者は、盛生一郎（2期）、青柳秀一郎（3期）、平野好朗（6期）、久留島通尚（9期）、荒木秀雄（14期）、田中三千穂（14期）、野村成二（14期）、山本努（14期）、佐々木毅（16期）、高橋吉雄（16期）、小田吉成（18期）、菅田正樹（18期）、三玉久雄（18期）、佐々木一彦（19期）、藤高道也（20期）、入江義明（学2）、頼島昭（学2）、中坪本治（学4）、山本治（学5）、久保智照（学10）、伊藤良一（学11）、小野菊男（学11）、大崎洲（学12）、木村公彦（学12）、福永晶（学14）、槇殿透（学18）、佐々木尚（学21）、藤井俊宏（学21）、八木敦夫（学21）、塙水尾哲也（学22）、木曾昭彦（学22）、木村邦夫（学22）、山下達博（学22）、檜崎幹雄

（学23）、灰塚隆敏（学23）、山本政治（学23）、稻垣晶紀（学27）、小野誠治（学28）、高場憲夫（学30）、伊達健二郎（学33）、吉川浩英（学35）、湯川修（学36）の諸先生に特別会員の梶川博先生を加えた43名であった。

昨年12月13日に物故された江木清史先生（10期）のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げた後、山本治幹事の司会により総会が開かれた。先づ盛生一郎会長から、「昨年に続き本年も多数の会員が総会に参加されたことは大変嬉しい。この機会に皆さんで知恵を出し合って更に立派な同窓会に育ててほしい。また本日は、ご多忙のなか、私どものためにご講演いただき母校第一内科関一郎先生に心よりお礼を申し上げます。」と挨拶があり、次いで藤高道也支部長より、昨年の総会以降の会務報告が行われた。その大要は、①新卒の学36期湯川修先生をはじめ、学22期の塙水尾哲也先生、木村邦夫先生、学23期の檜崎幹雄先生、山本政治先生の5名の会員が増えて、現在の



総会員数は120名である。②昨年8月31日にはゴルフコンペを行い、10月には会報『暁映ゆる』2号を発刊した。③江木清史先生(10期)のご逝去に対し香典をお送りした。④本年5月24日、神戸市『神仙閣』で開催された仁泉会基金運営委員会並びに総会に支部長が出席した。金利の引き下げなどのため基金の運用は苦しく、再検討を迫られている。⑤この一年間に幹事会を3回、新旧役員合同懇談会を1回開いて、会の運営について協議した。以上の会務報告の他、稻垣和郎先生(学28期)の広島臨床外科医学会賞の受賞、三玉久雄先

生(18期)の第15回医療功労賞受賞、伊藤稻造先生(11期)の広島市議会議員当選、梶川博先生(特別会員)の『脳神経外科要説』出版を報告してお祝いを申し上げた。

次いで、新入会の5名の先生方のあるいは格調高い、あるいはユーモア溢れる自己紹介に拍手と笑いが沸き起った。

福永晶幹事から別掲のごとく会計報告、頼島昭監事から監査報告があり、全員の拍手で承認された。また、本年度のゴルフコンペについて、木曾昭彦先生(学22期)から若干の補足説明があった。最後に、今年は会長を除

### 仁泉会広島支部61年度会計報告

| 取<br>入              | 支<br>出                        | 残<br>額  |
|---------------------|-------------------------------|---------|
| 前年度繰越金<br>746,815   |                               | 746,815 |
| 年会費(開業医)<br>387,660 | 総会費<br>407,510                |         |
| 年会費(勤務医)<br>61,600  | 講師費<br>200,000                |         |
| 総会会費<br>535,000     | 慶弔費<br>10,000                 |         |
| ゴルフコンペ会費<br>112,000 | 御見舞費<br>5,000                 |         |
| 幹事会会費<br>11,000     | 仁泉会会報<br>147,000              |         |
| 利<br>息<br>2,064     | 中村安治郎先生寄稿謝礼(写真送料含む)<br>22,150 |         |
|                     | ゴルフコンペ会長杯及び優勝杯<br>39,200      |         |
|                     | ゴルフコンペ食事代及び賞品代<br>111,810     |         |
|                     | 幹事会及び新旧役員懇親会<br>165,080       |         |
|                     | 雑費<br>50,625                  |         |
| 小計<br>1,109,324     |                               | △49,051 |
| 合計<br>1,856,139     |                               | 697,764 |

次年度繰越金  
697,764円

昭和62年8月11日

会計幹事 福永晶㊞  
監査役員 頼島昭㊞

く役員の改選期に当るので、山本治幹事が役員の改選について諮ったところ、支部長以下全幹事の留任と若い先生を幹事に加えるということが決まった。

伊藤良一幹事の閉会の挨拶に続いて特別講演にうつる。座長席には菅田正樹先生(18期)が着き、同期の関一郎先生の学生時代のプロフィールを当時の広島県人会のことなどを交えながら紹介され、関一郎先生が登壇。演題は『循環器疾患のプライマリーケア(内科側から)』であった。(講演要旨別掲)

特別講演終了後、関先生を囲んで記念撮影。その後会場を和室に移して懇親会を開く。先づ、盛生会長から講師の関一郎先生に謝辞とともに記念品を贈呈。次いで最年長の青柳秀一郎先生(3期)の乾杯の音頭で宴に入る。わが広島県支部のオープニングセレモニーとなったご存知入江義明先生(学2期)の手品、まことに鮮やかで、何度も見ても楽しい。久留島通尚先生(9期)は1年遅れの古稀の弁。菅田正樹先生をはじめ18期の小田吉成先生、三玉久雄先生がそれぞれ関先生との思い出を

語る。やがて美声田中三千穂先生（14期）を皮切りに賑やかなカラオケ大会となる。もうこうなれば司会者は不要である。当日のメモから歌手と曲目を敬称略で列挙して置きます。

（二、三洩れた方があるかもしれませんがあ  
るお許し下さい）

青柳秀一郎=「恋ごころ」、久留島通尚=「琵  
琶湖周航の歌」、田中三千穂=「愛のフィナーレ」、野村戊二=「奥飛騨慕情」、山本努=「同期の桜」、三玉久雄=「兄弟船」、頼島昭=「骨まで愛して」、木村公彦=「道づれ」、八木敦夫

=「赤いハンカチ」、山下達博=「君恋し」、植崎幹雄=「ブランデーデスク」、山本政治=「唐獅子牡丹」、小野誠治=「星降る街角」、伊達健二郎=「時には娼婦のように」。関一郎先生も上着をぬいで「瀬戸の花嫁を熱唱されました。宴はますます高潮するも残念ながら定刻となり、平野好朗先生（6期）のリードで“暁映ゆる”を合唱し、再会を約しながら散会した。

## 関一郎先生の講演

### 『循環器疾患のプライマリーケア』を拝聴して



本年度の総会特別講演は、母校第一内科の関一郎先生が標記の演題でお話しになりました。ご講演の内容は大きく二つに分かれ、一つは老人性高血圧、一つは学童期のウイルス性心筋炎がありました。思えば関先生には、つい四年前に大阪医大で循環器の講議をお受けしたばかりであり、お話を聞いているうちに、この建物を出ると高槻の街並がひろがっているような気がしてまいりました。

先づ高血圧症については、「わら」村での調査研究の結果を踏まえて、血圧、PSPテス

吉川浩英（学35）

ト、眼底所見、家族歴などから0~33点までのrisk scoreを作り、14点以上をhigh risk群として降圧療法を徹底的に行った。その結果、年間20~30人脳卒中で死亡していたものが数人にまで減少し、寝たきり老人も半数にまで減ったという素晴らしい成績を報告されました。また、収縮期血圧が上昇し、拡張期血圧の下がる老人性高血圧は最も動脈硬化の強い型の高血圧であり、これは大動脈の弾性が低下したために拡張期血圧が下がっているのであって、眼底検査やPSPテスト、ECGなどを併施して、血圧にとらわれずに、臓器障害に注目する必要があると力説されました。

学童の検診に際して、最近では運動負荷をルーチンにしているとのことでした。何故かというと、運動後にVTを生ずる例があり、原因はどうやら風邪(Adeno Virus)によるウイルス性心筋炎であったということである。学童の急死に一役噛んでおり、風邪といつても馬鹿にできないと話されました。

以上を、時間内に終らぬほど熱心に私どものためにご講演いただき、教えられること多く、実りの大きな年に一度の総会となりました。

## 古稀会員のひとと/or

林 剛吉（8期）

この度、はからずも仁泉会広島県支部の皆様から、私の古稀のお祝いにと立派な菓子器をいただき、誠に有難くお礼を申し上げます。手もとに置いて、皆様の温かい友情をしみじみと味わいながら大切に使わせていただきます。

思えば四十八年という長い間、厳しい医療の道を歩み続けて来たわけですが、実感としては夢まぼろしの如く短く感じられます。学生時代の楽しかったことも、苦しかったことも、つい昨日のことのように懐かしく思い出されます。

これから先は年を重ねるテンポが更に速くなつて行くだろうと思うと、なんとなく淋しい気持もします。が反面もっと一日一日を充実させて頑張りたいものだという意欲も湧い

て来ます。

私はこういう目出度い年に肝臓を悪くして、テニスも休まざるを得なくなりました。体力も気力も衰えてくるという苦しい生活を送つて來ました。鈴木アナウンサーの「健康は自分に贈ることの出来る最高のプレゼントである」は、けだし名言であると痛感いたしました。皆様も体を大切にされて健斗されるよう祈っています。

幸いデーターも良くなり、ぽつぽつテニスも始めております。まだまだやりたいことが沢山あります。古稀という節目を出発点として、無理をしないで一步一歩と新しい目標に向つて進んで行きたいものと覚悟を新たにしております。

## 喜寿、おめでとうございます

真田博先生（5期）、小池誠之先生（7期）のお二人が本年喜寿をお迎えになりました。  
敬老の日に杉本純雄県医師会長からお祝いに

置時計が贈られました。どうぞお元気で今後もご活躍下さい。

## 栄えの受賞者 広島臨床外科医学会奨学会

稻垣和郎先生（学28）

広島大学第二外科学教室において大学院学生として研鑽中の先生は『ラット同所性肝移植に関する研究』が認められ、新設された広

島臨床外科医学会賞の奨学会が、昭和61年11月16日の広島医学会総会の席上贈られました。

## 第十五回医療功労賞

三玉久雄先生(18期)

辺地住民の健康の担い手として、昭和62年2月6日表彰されました。上下町で開業30年、その間無医村だった甲山町三川地区での診療、

また甲奴郡医師会長として成人病や癌の町ぐるみ検診、献血運動を推進してこられました。

## 仁泉会広島県支部ゴルフコンペ

福永晶(学14)

残暑が殊の外厳しい8月30日(日)、本郷C.C.において、前回の優勝者木曾昭彦先生のお世話により開催されました。真田博先生が、ご高令(77才)にもかかわらず“暑い”とはひと言も仰らず黙々とプレイされる姿に全員脱帽!!

今回、図らずもハンディキャップのおかげで優勝し、来年の当番幹事を引き受けることになりました。皆様の多数のご参加をお待ちいたします。また若い先生方、新入会の先生方で「仁泉会ゴルフの会」に参加を希望される方は私までご連絡下さい。

| NAME       | OUT | IN | TOTAL | H.D. | NET  | RANK |      |
|------------|-----|----|-------|------|------|------|------|
| 真田 博(5期)   | 52  | 48 | 100   | 22.8 | 77.2 |      |      |
| 福永 晶(学14)  | 49  | 48 | 97    | 25.2 | 71.8 | 優勝   |      |
| 木村 邦夫(学22) | 40  | 43 | 83    | 10.8 | 72.2 | 2位   | B.G. |
| 山本 治(学5)   | 42  | 44 | 86    | 13.2 | 72.8 | 3    |      |
| 木曾 昭彦(学22) | 51  | 47 | 98    | 24.0 | 74.0 |      |      |
| 伊藤 登一(学15) | 48  | 40 | 88    | 14.4 | 73.6 | 5    |      |
| 佐藤 滋(学21)  | 51  | 46 | 97    | 20.4 | 76.6 |      |      |
| 中坪 本治(学4)  | 42  | 43 | 85    | 12.0 | 73.0 |      |      |
| 八木 敦夫(学21) | 61  | 50 | 111   | 30.0 | 81.0 |      | B.B. |
| 山下 達博(学22) | 52  | 56 | 108   | 26.4 | 81.6 |      |      |
| 灰塚 隆敏(学23) | 53  | 51 | 104   | 30.0 | 74.0 | 7    |      |

## 堺俊明教授(学2)の講演を聴講して

長尾澄雄(学7)

去る4月17日、県医師会館で行われた、第12回広島県うつ病研修会で、母校の神経科教室の堺俊明教授並びに米田博助手が、躁うつ病の臨床遺伝学というタイトルのもとに講演されたのを聴講する機会を得たので、その感

想記とでも云うものを記してみようと思う。

先ず、堺教授は、躁うつ病の遺伝研究に就いて、一般集団、家系、双生児研究の面から概説された。

先ず、一般集団における、うつ状態を含む

躁うつ病（感情障害）の罹病危険率は、0.03%から31.3%と、報告者によって非常に大きなばらつきがあり、特に、近年における報告ほど、より高率となり、この原因としては、調査方法による異なりもさることながら、近年における、社会環境的な急激な変化も挙げられようとした。

次いで、家系の研究、即ち、躁うつ病患者の近親者における発病危険率にふれられ、そして、躁うつ病の中にも、遺伝的にはいろいろ異なるものが含まれていることが、知られるようになった。

特に最近、躁うつ病を、うつの病相のみを繰り返す単極型とうつと躁の病相期をもつ双極型とに分けて、家系調査をした場合、両者で発病危険率に相異がみられたことなどから、躁うつ病の異種性が示唆されると述べられた。

双生児研究では、一卵性双生児MZと二卵

性双生児では、一致率（両者とも発病）が、MZの方で、有意に高く、特に、別々の環境のもとで、育てられたMZでも、一致率が殆ど変わることなどから、躁うつ病では、遺伝的な要因が濃厚であると述べられた。

次いで、米田博士は、近年、遺伝子工学の進歩は目覚ましく、DNA組み替え技術を用いての感情障害の連鎖研究（2つの遺伝子の位置を分析する研究）もされるようになり、その結果、双極性の感情障害の病的遺伝子が11番染色体上の遺伝子である発癌遺伝子HRASの近くに存在するという仮説がなされ、双極型感情障害には、この11番染色体の他に、6番染色体、性（X）染色体並びにその他に病的遺伝子が存在するという計4つのタイプがあると考えられているという最近の知見に就いて述べられた。

## 随筆

## 私の訪中の旅

### 久留島 通 尚（9期）

昭和61年の春先頃から、何かいろいろする不愉快な不眠の日が続いた。下から押しあげられて崖淵に立たされたような嫌な感じであった。

私は大正5年8月生まれで、満70才の古稀を過ぎた。私の父も、叔父や叔母も共に70才余りで亡くなっている。老い先短いとわれ知らず考えていたのかもしれない。

昭和15年3月大阪高医卒の私は、同年5月15日に弘前第31連隊に軍医候補生として入隊。同年7月末に任陸軍々医少尉、東北部隊で編成されていた山西省の潞安陸軍病院付となつた。次いで昭和18年6月、当時潞安地区の週辺警備に当っていた第36師団（雪部隊）の野戦病院（沢州）に転属した。更に同年11月末には、上海を出港して西部ニューギニヤ、サルミ地区に向った。昭和20年8月終戦、生存

者は十分の一となり、翌年6月名古屋港に復員した。軍隊生活6年余は何れも東北部隊であった。

昭和61年春のこと、山形の日通航空から、戦友と行く中国再訪の旅と題して『雪部隊中國戰跡訪問の旅』なる葉書が舞いこんだ。私は常々もう一度中国を、ことに山西省の旅を夢見ていたので、心は大いに揺れ動いた。戦後四十余年、私も古稀となった。よし、気分転換のため中国に行ってこようと決心した。

A班は、北京—太源—長治（潞安）—高平—晋城（沢州）—陽城—沁水と何れも懐かしい所である。B班は、北京—太源—平遙—介休—臨汾—侯馬—連城と名前に記憶はあるものの行ったことのない所である。私は直ちにA班を希望した。ところが、当初は若干の希望者もあったらしいが、年令の故かキャンセ

ルが続き遂にA班は私一人になってしまった。日通航空より「先生ひとりになってしまったのですが、どうしますか」と連絡があり、止むなくB班に同行することを約した。同じ山西省、大体似たようなものだろうと得心した。同行8名である。

9月4日から12日までの9日間の旅である。その間の診療は？ 患者は？ と気にはなったが、この機会を逃したらもう好機は無いような気がして旅行に行くことに決めた。先づは体力作りと、6、7、8月の間、週2回(火金)早朝ゴルフに精出した。これは大いに役立ったと思う。次いでパスポート申請と次々行事が続き、遠足に行く小学生のような気持であった。

北京一太源一臨汾一運城一西済一上海と廻って帰国した。表通りは次々に大きなビルが建ち並び壯觀であるが、裏通りや横道に入ると旧態どおりらしい。殊に郊外の田舎に行く

につれ、昔の中国と変わらぬ状態であった。山西省の丘陵地帯には、今もなお洞穴生活があるようで懐かしい感じであった。幹線道路は舗装され両側には主としてポプラの並木が延々と続いていたが、横道は舗装されていないようだった。それにしても広大な大平原、その昔、日本軍がよく作戦したものだと感心した。

一期一会、8名の良き同行者で、楽しい中国旅行だった。出発前のもやもやした気分もすっかり無くなり落ちついた。

遣唐使、遣隨使、空海の昔は日本の若者にとって中国は憧れの的であったが、現在では中国の若者が日本語を学び日本に行ってみたいと考えているそうで、昔と正反対の立場である。日本も中国も、平和のなかで共に発展してもらいたいものである。

(この原稿は昨年10月23日にいただいたものです)

## わが戦中、戦後——短歌とともに（その二）

青柳秀一郎（3期）

長沙、衡陽激戦のため連隊の兵員半減す。  
昭和20年初頭、充足要員として来たれる兵内地の現状を語る。

糧足らずと具さに聞きぬ国内の  
極まれるさまを遙かに思う  
糧足らずとも親は堪うべし幼子は  
如何にあるらむ日日を送るや  
幼どち食うが楽しき頃ながら  
糧少きに妻の心や

桂林より更に前進、昭和20年1月終りに中都という山間の小邑に我が部隊は駐屯。その間約2ヶ月。ドラム罐ストーブを作りて暖房とす。

人の無き町の姿ぞ哀れなれ

街の外れの小さき中学  
雨降れば忽ち寒し人も来ず  
木を燃やしつつ一日を暮す  
夜半覚めて妻を思ひて堪え難き  
ままに疲れて眠ること多し  
この町や山に囲まれ水清く  
二月というに草さえ枯れず  
山の辺に清き川流れ人集う  
心妬しき町にてありしか  
覚めし儘に夜半に起き出でもの書けば  
夜の明け近し冷えのよろしさ

やがてこの地を離れ前進更に南行、敵機の警戒のため夜間のみの行軍なり。  
夜毎夜毎ふくらむ月に心寄せ

行く先知らずただ歩きつつ  
遠き野火は如何なる山かひた歩く  
隊列長し土地は何処ぞ  
うつつ心ただ歩き居り明け初めぬ。  
今日も終るかとひそかに嬉し

常に先発兵前進し駐留地を選定、焚火にて合図とす。  
篝火が遠くまたき見え初めぬ  
ひそかに嬉し宿営地ならむ  
戦いの久しきままに人絶えて  
街の舗道を音高く行く

興安市を通過、附近に戦斗ありしなり。屍体多く埋めあり。  
土崩れ白き指の滑ろにも  
露はれて見ゆ春浅き林  
外国のはたての丘の早春の  
林の中に汝は眠るかな  
千人針目にも親しく散りばえる  
明るき林に兵埋めあり

昭和20年7月になり、対ソ戦必至なりと我が部隊も突然満洲方面へ移駐を命ぜらる。  
いよいよ我命捨つべき時や来ぬと  
ひそかに定め今はやすけし

移駐途中、8月16、17日頃か、我が帝国、ポツダム条約受諾の由を我が部隊にも通達し来たる。敗戦なり。他国、他地の様子は一切不明なれど我等は重慶を目指し更に前進中なりし。中国における我が軍の蛮行、非道は常に兵より聞き居れど、とにかく難戦にも勝つつつつ常に前進占領に終始せり。

大いなる罪の徵とは思えども  
勝ちてしまりしに悲しかりけり

我等も敗戦部隊となりたれど武装のまま連隊砲さえ連ねつつ、南京に集結せよとの命により行軍を続く。明るき日中の行軍となる草生しるこの大きさを今日も行けど

心安からねば兵は語らず  
事や知るにはるけき身さえはや日日に  
険しき世を見ぬ遠く勝ちしに  
帝国の古りて栄えある歴史さえ  
かくも空しく崩れゆくかな  
詔は定かならぬラジオにて  
詔らせりと聞くありて堪うべしや  
続くものを心たのみで死にませる  
諸神達に何にと告ぐべし  
永遠の國の運命に任せける  
諸神達の心に恥じよ

兵等集りては語る。召集されて中国にて六年兵、七年兵となりたるものあり。  
戦えとの詔だに今し出でば  
荒みに荒み生命果てけむ

敗戦の報忽ちにかかる奥地にさえもあまねく伝はり、二、三日前二、三円なりし鶏卵も一個千円という。  
かくも速く知らるるものかここにして  
卵一つを千円と言う

從来通用せし通貨は占領地発行の儲備券なり、敗戦直後四、五日にして通用せず。  
既にはや幾日経ざるに駄菓子さえ  
我等が通貨は用いられざる

長江岸（揚子江岸）を下りつつ下流南京に向う。  
ある時は向い岸見えある時は

海にさえ見ゆる岸今日もゆく

各部隊共この岸を行くと見え、小生は和歌山連隊なるに、妻の里の福島県の部隊も共に行く。不思議なり。

六年前妻が里にて手術せし  
人が呼び居りこの時この地に

既に八路軍が戦勝ビルを遠近の家屋の壁に張りめぐらす。

行き行きて見るに胸沸つビラのあり  
我等は勝ちし戦いなるに  
帰りつかば妻子とありて慰めむ  
心わびしき世となりにける

長江河畔、農家のみにて仔豚すべて放し飼  
いなり。

頭上げて眺むと見しが忽ちに  
遠走り行く仔豚なりけり  
痒ゆきにや泥そのままの腹寄せて  
壁にてこする顔には思いなし

南京対岸浦口の、爆撃にて半壊の建物を連  
隊本部とし、周囲に数多の草屋根のバラック  
を急造し集中營とす。一人静かに思うことあ  
り。

崩れたるもなかに残る一棟も

住まいし居れば良しと思うなり

將校連中を見て思うこと多し、  
姿こそ整いたりと言はんやも  
性劣りたる人もあるかな  
命と言う大き權持ち私の  
心なしとは言はれざる人あり  
軍人が己のみにて國負しと  
思はざりとは言はれざらめや  
善しや悪しや思しさえ今は心憂し  
己が心さえ定めかねつも  
直心國に捧げて散りゆける  
若き心のうらやましきかな

すべての建物、癱瘓にさえ中國旗がはため  
く。

## 会員消息短信

### 藤峰徹定先生（特別会員）

「諸兄ご健勝のご様子ご同慶の至りです。  
小生いまだに歩行不如意にて総会は失礼しま  
す。」とお便りがありました。

### 梶川 博先生（特別会員）

昨年11月、太田富雄教授との共著『脳神経  
外科要説』を出版されました。是非ご一読下  
さい。また、小川竜介、小畠仁司両先生が帰  
局され、現在弘田直樹先生（学32）の他、多  
根一之先生（学33）、辻雅夫先生（学34）が新  
しく赴任して来られました。

### 青柳秀一郎先生（3期）

県議選挙、医師会、ロータリーなどの雑事  
に紛れて荏苒、日を送っています。来年こそ  
は一切やめて、のんびりと気楽にあと僅かの  
余生を楽しみたいものです。親友に死なれて

無情泣々です。

### 確井博司先生（3期）

「総会では、時節柄有益なご講演を拝聴で  
きるものと期待して居りましたが、法要のた  
め残念ながら失礼します。ご盛会を祈ります。」  
とお便りがありました。

### 郷田忠一先生（3期）

ご家族から、「父は元気に致して居りますが  
近頃足が弱くなってしまったので、この度の  
総会も欠席させていただきます。皆様に呉々  
もよろしくと申して居ります。」とのお便りを  
いただきました。

### 山下 悟先生（3期）

「病弱のため不本意ながら総会は欠席いた  
します。ご盛会であることをはるかに祈り居

ります。」とのお便りでした。

### 小野聰三先生（4期）

「昨秋には白内障の手術、このところ成人病を通り越して老人病続出し、殆んど外出していません。」とお便りにありました。ご回復を切に祈ります。

### 真田 博先生（5期）

最近は診療を子供達に任せ、保健の意味で好きなゴルフ三昧に明け暮れしています。

### 伊藤稻造先生（11期）

皆様のご後援により再び市議に当選させていただき、誠に有難うございました。市議会では常任委員会、建設委員会の大役につくことになりました。今後ともよろしくお願ひいたします。

### 細川 至先生（13期）

お便りによると「頭部挫滅創と左肋骨々折（IV、V、VI、VII）にて療養中」とのことです。ご快癒を祈ります。

### 田中三千穂先生（14期）

5月末に14期クラス会が岐阜であり盛会でしたが、前日の大雨で鵜飼もライン下りも中止となり残念でした。

### 山本 努先生（14期）

「被爆者の肺癌発生率は2倍、腺癌、類表皮癌が多い」という放影研での追跡調査の結果が、7月16日の中国新聞に先生の談話と共に載りました。今後ともご活躍下さい。

### 向井秀夫先生（15期）

「残念ながら総会に参加できません。この次の会を楽しみにして居ります。」とお便りがありました。

### 小田吉成先生（18期）

昨年12月9日、左鎖骨下動脈及び総腸骨動

脈の閉塞症にて手術。44日間入院。本年4月には腹壁ヘルニアにて手術、1ヶ月間入院。現在は全快され、総会にもお元気で出席されました。

### 内藤虎雄先生（18期）

「総会には関一郎君が講演に来られる由、卒業以来ですので是非お会いしたいのですが、7月中旬より肝臓を悪くし未だ体力が充分に回復せず失礼します。」とお便りがありました。

### 入江義明先生（学2期）

本年1月から、リヨービK.K.診療所（〒726府中市目崎町637、TEL0847-41-4486）勤務となり、自宅住所は〒729-31芦品郡新市町戸手311（TEL0847-52-6875）となりました。

### 津村 曜先生（学3期）

大竹市医師会々報47号、48号に続けて墓について書いておられます。「墓は無言でやれて、金銭的トラブルが無く、長い人間関係が保たれる。」とのことです。

### 円山迪雄先生（学6期）

本年3月30日、胃切除をうけられました。ご快癒を祈ります。

### 伊藤良一先生（学11期）

広島保険医新聞第124号（昭和62年7月1日）に『肛門疾患の治療』昨年7月の「広島医学」（Vol.39、No.7）補習講座には『肛門疾患の治療にあたって』を寄稿するなど専門分野で大いにご活躍中です。

### 小野菊男先生（学11期）

本年3月31日より郵便番号が729-65に変更になりました。

### 平田忠範先生（学19期）

「丁度東京でのスポーツドクター講習会に出席のため、総会に出席できないのが残念で

す。皆様によろしくお伝え下さい。」とお便りがありました。

#### 佐々木尚先生（学21期）

開業してやっと2年が過ぎようとして、どうにか仕事にもなれて来たこの頃です。

#### 八木敦夫先生（学21期）

尾道地区の仁泉会員のリーダー的存在である、尾道医師会副会長円山先生がご療養中のため、皆元気が出ません。私も血圧に問題があるので、円山先生のご入院を期して禁酒しました。総会は楽しみで、ビール1杯ぐらいは…と考えています。

#### 大庭容子先生（学22期）

広島駅前診療所から、広島県集団検診協会（〒730広島市中区大手町1丁目4-11、TEL 082-248-4114）勤務となりました。

#### 稻垣晶紀先生（学27期）

昨年10月因島市医師会病院を辞し、広大第二内科を経て、現在草津クリニック（〒733 広島市西区草津南1丁目7-10）に医局から派遣されています。7月に学位を授与されました。

た。自宅住所は〒730広島市中区大手町5丁目21-15、大手町ハイツ1104号、TEL 082-244-1305。

#### 稻垣和郎先生（学28期）

現在、広島大学第二外科大学院（4年生）に在学中で、肝移植の研究に熱中しています。

#### 鈴木武彦先生（学33期）

昭和63年3月まで尾道総合病院に勤務し、4月から広大第一内科に帰局の予定です。

#### 中崎育明先生（学34期）

本年4月から県立広島病院第一内科に勤務しております。

#### 吉川浩英先生（学35期）

#### 吉川（安田）威津子先生（学35期）

「結婚して長女が誕生しました。今後ともよろしくお願ひします。」とお便りがありました。おめでとうございます。新居は〒730 広島市中区千田町1丁目5番8号701号 TEL 082-242-7134。

## 業 務 日 誌

**昭和61年10月18日：**会報『暁映ゆる』第2号を発刊、全会員及び仁泉会などに送る。

**昭和61年11月16日：**稻垣和郎先生（学28）の『ラット同所性肝移植に関する研究』に第1回広島臨床外科奨学金が授与され、広島医学会総会の席上表彰されました。記事を仁泉会ニュースに送る。

**昭和61年12月13日：**江木清史先生（10期）ご逝去。後日仁泉会ニュースで知りご遺族にお悔み状と香典を送る。

**昭和62年2月6日：**三玉久雄先生（18期）辺地医療の功績により第15回医療功労賞を授

与されました。仁泉会ニュースに記事を送る。

**昭和62年3月16日：**午後7時よりグランドホテルにて幹事会（盛生一郎、藤高道也、山本治、福永晶、山下達博、高場憲夫）。本年度総会の時期、場所、講師などについて意見を交換し、開業、勤務の異動を確認。支部長より山口、愛知両県の支部の活動状況の紹介があった。

**昭和62年3月31日：**円山迪雄先生（学6）下血にて緊急手術と八木敦夫先生（学21）から連絡あり、会よりお見舞を出す。

**昭和62年4月12日**：伊藤稻造先生（11期）広島市議に当選。支部長からお祝いの葉書を出す。

**昭和62年4月14日**：午後7時より県医師会館第3会議室にて新旧役員合同懇談会（盛生一郎、荒木秀雄、田中三千穂、山本努、藤高道也、中坪本治、山本治、伊藤良一、大崎洲、福永晶、山下達博、高場憲夫）を開き、総会の日時、場所、招待講師の人選、役員改選などについて協議。

**昭和62年4月17日**：大阪医大精神科堺俊明教授（学2）が学術講演のため来広され、同期の谷川篤朗、頼島昭両先生と長尾澄雄先生（学7）が『ひのき』で歓迎会。支部長も同席した。

**昭和62年5月24日**：仁泉会基金運営委員会並びに総会（神戸、神仙閣）に支部長出席。

**昭和62年6月12日**：総会通知を発送。

**昭和62年7月16日**：中国新聞に被爆者の肺癌発生の追跡調査が山本努先生（14期）の談話の形で載り、記事を仁泉会ニュースへ送る。

**昭和62年7月28日**：『とり若』にて幹事会（盛

生一郎、藤高道也、頼島昭、中坪本治、山本治、伊藤良一、福永晶、山下達博）。総会特別講演を依頼していた三島救命救急センター所長田辺治之先生（2期）がご入院のため、母校第1内科関一郎先生（18期）に講演をお願いすることとした。

**昭和62年7月29日**：支部長より関一郎先生に電話で総会に招待、講演を依頼し、ご承諾いただいた。早速総会出席予定者と未回答会員に講師変更の通知を発送。

**昭和62年8月15日**：藤高支部長が前期につづいて仁泉会基金運営委員を委嘱される。任期は昭和65年5月まで。

**昭和62年8月23日**：昭和62年度仁泉会広島県支部総会並びに懇親会を県民文化センターで開催。全役員が留任となり新しく木曾昭彦先生（学22）と伊達健二郎先生（学33）が幹事に推薦された。

**昭和62年8月30日**：仁泉会広島県支部ゴルフコンペを本郷C.C.で開催。

**昭和62年9月1日**：林剛吉先生（8期）に古稀記念品を送る。

## お・し・ら・せ

- 名簿に次の先生方をご追加下さい。

| 氏 名   | 卒期  | 〒          | 自 宅 住 所                          | TEL              | 開・勤 | 勤務(開業先)   | 診療科目 |
|-------|-----|------------|----------------------------------|------------------|-----|---|------|
| 塙水尾哲也 | 学22 | 738        | 佐伯郡廿日市<br>町阿品4丁目<br>11-13        | 0829-<br>36-3200 | 勤   | 佐伯郡廿日市<br>町阿品4-51-1<br>阿品土谷病院<br>℡ 0829-36-5050 | 外    |
| 木村 邦夫 | 学22 | 729<br>-01 | 尾道市高須町<br>5219-1                 | 0848-<br>47-1558 | 勤   | 尾道市高須町<br>735<br>山本内科病院<br>℡ 0848-46-0634       | 麻酔   |
| 檜崎 幹雄 | 学23 | 720        | 福山市三吉町<br>221-3                  | 0849-<br>25-4580 | 勤   | 福山市三吉町<br>4丁目1-15<br>三愛病院<br>℡ 0849-22-0800     | 産婦   |
| 山本 政治 | 学23 | 720        | 福山市三吉町<br>4丁目1-1<br>ベン・アニナビル403号 | 0849-<br>21-0448 | 勤   | 三愛病院  | 整外   |
| 湯川 修  | 学36 | 734        | 広島市南区旭<br>2丁目4-26                | 082-<br>251-4932 | 勤   | 広大<br>脳神経外科                                     | 脳外   |

- 「愛知県仁泉会だより」30周年記念号、61年7月号、「山口県支部誌」受贈しました。ご覧になりたい方は支部長にご連絡下さい。
- 「仁泉ひろしまアラカルト」は次号に廻します。
- 会員の慶弔、各地での親睦会など支部長までご一報下さい。
- 投稿及び連絡先

〒733 広島市西区打越町12番8号

藤 高 道 也

TEL 082-237-3403